

株式会社南陽（神奈川県川崎市）

～メイクアップ化粧品の充填機器で自社ブランドを確立～

1. 化粧料充填機メーカーとしてスタート

株式会社南陽は、化粧品下請けメーカーに勤務していた社長が、その経験を生かして昭和59年に設立した化粧料充填機メーカーである。わずか4人でのスタートであったが、社長はそれまで勤務していた化粧品下請けメーカーで、経理、原料管理、機械製作・営業・工程管理等あらゆる分野に携わっていたため、会社設立にあたってはその経験が十分に役立ったという。会社名の「南陽」は、社長の出身地である山形県南陽市に由来する。

2. 設立2年後、2件の特許申請

会社設立から2年後の昭和61年、2件の特許出願を行った。当時、アイシャドウなどのメイクアップ化粧品の分野では、多色同時に充填する技術がなかったため、同社では、その壁を打ち破り、多色を一度に充填できる技術を開発した。さらには、油圧プレス式の充填機に代えてサーボモータを利用した圧縮成型法の充填機を開発し、数値管理による均一で高品質な商品作りを実現するなど、高い技術力でユーザーニーズに応えていった。

その後、いくつもの特許出願や実用新案登録出願を行い、平成8年には国内で10件の特許を取得したほか、海外6カ国でも特許を取得した。平成10年には輸出事業を開始し、6カ国に練り状化粧品の充填機械を輸出している。

3. 特許は必ず役立つ

社長が化粧品下請けメーカーに勤務していた昭和45年当時、技術を評価してくれた上司の勧めで、その技術の特許出願し、5年後に特許を取得した。この経験がきっかけとなって社長の特許に対する関心が高まり、その後も改良特許を取得するなどして、企業活動における特許の重要性を感じていった。

会社設立当時は、「どうやって人より早く、人よりうまくやるか」をテーマとし、「知的財産は、企業にとって将来必ず役立つ」という信念のもと、早くから積極的に特許の出願を行った。設立当時は企業の歴史がないため、たとえ技術力があっても得意先の技術評価・信用を得ることが難しかったが、特許を取得していくことで、5年後位から徐々に認知度が上がってきた。今では、特許を持っているという理由から優先的に受注するケースが多く、特許が受注活動に有利に働いて高いシェアを獲得している。

社内の知的財産に関する体制は、社長自身がその多くを担い、先行技術調査は特許電子図書館（IPDL）を使って調査している。また、顧問である弁理士及び元大学教授に製品のデータ分析なども依頼しており、その分析結果は、同社の技術力の裏付けとして大手企業への説明等に活用している。

近年、同社の粉末成形技術は、異業種（食品関係）からも注目を浴びようになり、カレー粉の成型、電子部品成型などにも利用されている。

4. 海外進出における考え方

同社では、輸出前に、製品を保護する手段として海外への特許出願を行っている。ただし、特許取得後の模倣品調査など、現地での追跡調査は行っていないという。体制として困難という理由もあるが、「コピーされるようになったら本物の技術だ」、「また新たに開発すればいい」、取引先である大手グローバル企業は信用や技術を重視し、模倣品には手を出さない、と考えているからである。

同社は、少数精鋭の高い技術力で、化粧品関連分野のみならず、異業種分野へのさらなる進出を目指している。

●保有権利に基づく製品例



サーボショット



製品

●会社概要

名称及び代表者名	株式会社南陽 代表取締役 嵐田 光雄
本社所在地	神奈川県川崎市高津区二子5丁目14番40号
創業	1984（昭和59）年
資本金	1,500万円
従業員数	15名
主要製品	化粧品等の充填装置、成型装置の設計・開発・製造・販売
電話	044-811-5661
URL	http://www.nanyo.org/